



名大名誉教授の山田さん、名経大で講演

あまり知られていないが、犬山市八曾の国有林内に名古屋大の「犬山地震観測所」がある。設立直後から観測に関わった山田功夫・名大名誉教授が15日、同市の名古屋経済大で講演。観測所の成り立ちや地震観測方法など、知られざる姿を近隣住民ら約30人に向けて話した。

(三宅駿平)

名古屋犬山地震観測所などについて解説する山田名誉教授。犬山市の名古屋経済大で



1970年に撮影された犬山地震観測所と地殻変動観測所＝犬山市八曾で（名古屋大提供）

犬山に関する第一線の研究者らを招く、名経大の「犬山学サロン」の18回目として実施。山田名誉教授は1968、80年ごろ、観測所で研究に携わった。

犬山地震観測所の設立は65年。微小地震の観測、研究から大地震の手掛かりを得ることを目的に、人工的な要因などによる揺れ（雑微動）が少ない、地盤が固いといった立地から犬山に建てられた。67年に地殻変動観測所も併設。しかし82年、観測所の約2キロ南に中央自動車道が開通すると、雑微動が増えてしまったという。

山田名誉教授によると、設立初期の研究から、微小地震とそれを引き起こす活断層の活発さなどは分かった。だが岐阜県中部地震（69年）、伊豆半島沖地震（74年）、長野県西部地震（84年）といった大地震が発生しても、予知に役立つ研究結果は得られなかった

設立初期から研究 住民に歴史など解説

知ってる？ 犬山に地震観測所

という。

山田名誉教授は「できるとされていた地震予知は、研究が進むにつれ難しいということがはつきりしてきた」と説明。現在も予知の研究は続けられているが、「軸足は防災や減災に移されている」と伝えた。

80年代半ばからは、各地の観測所の記録を遠隔で集められるようになり、観測

所の無人化が進行。犬山も89年に無人となり、以後は倉庫化した。地中の観測トンネルなどを残し、建物は近く撤去される予定だという。

講演ではこうした歴史に加え、地震計の仕組みの解説などもあった。受講者からは南海トラフ地震の発生確率などについての質問が出た。